



編集・発行 環境省 関東地方環境事務所
制作 ライトブランディング株式会社

〈お問い合わせ〉伊豆諸島管理官事務所
〒100-0101 東京都大島町元町字家の上445-9 大島合同庁舎1階
TEL:04992-2-7115 / FAX:04992-2-7116

〔写真提供〕

大島町役場、伊豆大島ダイビング&ネイチャーサービス オレンジフィッシュ、利島村役場、新島観光協会、
特定非営利活動法人 神津島観光協会、一般社団法人 三宅島観光協会、三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館、
公益財団法人 日本野鳥の会、一般社団法人 八丈島観光協会、八丈ビジターセンター、特定非営利活動法人 選住舎、
公益財団法人 山階鳥類研究所、森由香

〔写真提供・協力〕

長谷川雅美(東邦大学)

上條隆志(筑波大学)

川邊禎久(産業技術総合研究所)



富士箱根伊豆国立公園 伊豆諸島ガイドブック

つなぐ
ものがたり

*Fuji-Hakone-Izu National Park
Izu Islands Guidebook*



Location

国立公園区域



伊豆諸島は東京都に属する島々で、東京からほぼ南、約120~650kmの太平洋に点在する火山島です。このうち、大島から八丈島までの8島及びその属島が「富士箱根伊豆国立公園」に指定されています。

国立公園とは

国立公園は日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するもので、全国に34箇所あります。優れた自然を地域の魅力として活かし、未来へつなぐための様々な取組みが行われています。

富士箱根伊豆国立公園とは

富士箱根伊豆国立公園は、富士山を北端として富士火山帯に属する各種火山地形や温泉、変化に富む海岸線や島嶼からなる火山国日本を代表する国立公園です。

富士山を中心にその周辺の湖沼や高原を含む富士山地域、東海道の宿場町であり、古くから温泉地として名高い箱根地域、天城連山と変化に富んだ海岸線、そして温泉が魅力の伊豆半島地域、今日でも火山活動が活発な島々を含む洋上の火山島からなる伊豆諸島地域の4地域で構成されています。



似ているようで違い、違いようでつながっている島々。

海を越えて、人と人が、つながっていく島。

人と自然とのかかわりを、過去から未来へとつなぐ島。

様々な生命と大地の営みによって、

新しい絆をつむぎ、つながりながら育まれた東京の島・伊豆諸島。

私たちは、そんな島々の豊かな自然が織りなす

「つながり」の物語をご紹介します。

Contents

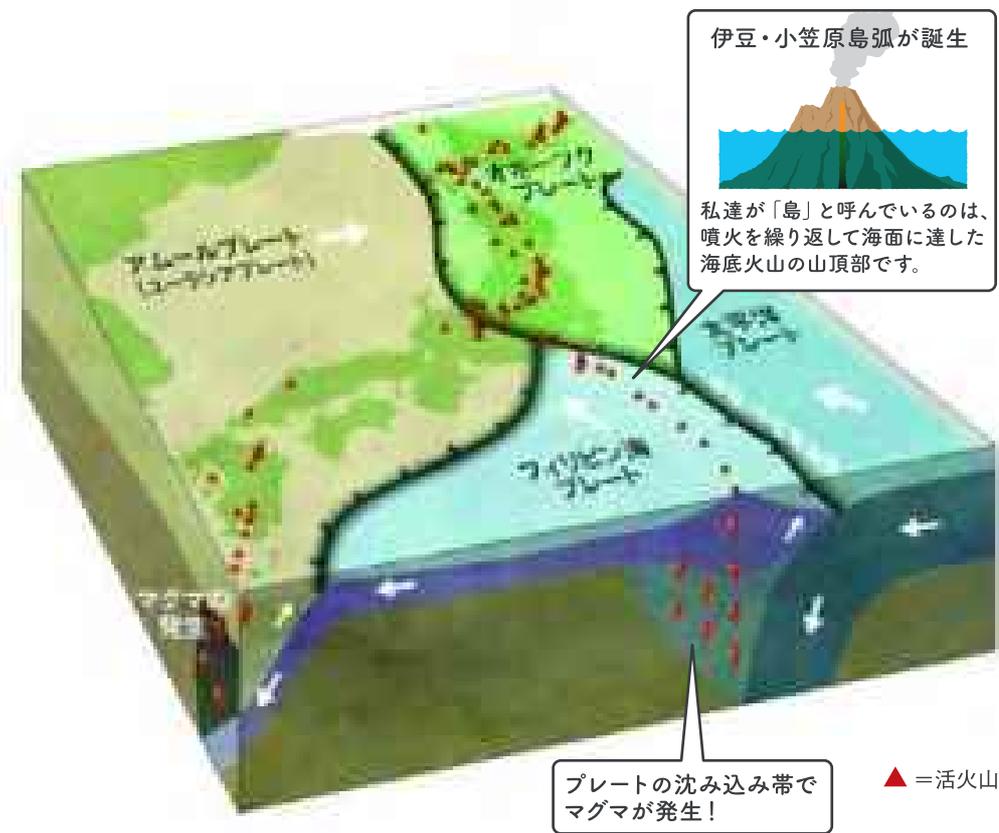
伊豆諸島はどうやってできたの？	P3-4
どうして島によって見た目が違うの？	P5-6
伊豆諸島の火山は何がすごいの？	P7-8
伊豆諸島にはどんな生きものがいるの？	P9-10
島ごとに生きものの特徴が違うって本当？	P11-12
伊豆諸島の人々は自然とどう関わってきたの？	P13-14
大島	P17-18
利島	P19-20
新島	P21-22
式根島	P23-24
神津島	P25-26
三宅島	P27-28
御蔵島	P29-30
八丈島	P31-32
国立公園の利用上のマナー／各島へのアクセス	P33-34

伊豆諸島はどうやってできたの？

2つのプレートの移動と火山活動から生まれました。

プレートの作用によって、噴火が繰り返し発生！

伊豆諸島の東側には、伊豆・小笠原海溝と呼ばれる深い海底の溝があります。ここは、海溝の西側にある「フィリピン海プレート」の下に、東側から進んできた「太平洋プレート」が沈み込んでいる場所。この作用によって地下深くでマグマができて上昇し、噴火が繰り返し起こることによって、伊豆・小笠原島弧と呼ばれる火山列島が作られました。※島弧:深い海溝の陸側に沿って存在する弧状の列島(岩石学辞書)



伊豆諸島は、「フィリピン海プレート」の下に「太平洋プレート」が沈み込むことによる火山活動によって、富士火山帯海底山脈の山頂部が海面まで達して誕生した島です。

マグマの性質の違いによって、黒っぽい島と白っぽい島が誕生。

噴火で噴出した溶岩の違いは、島ごとに異なる独特の景観を生み出しました。

<p>二酸化珪素が多い</p> <p>流紋岩質</p> <p>『白っぽい島』</p> <p>マグマは粘り気が強く、噴出する時の温度は約800℃。そのまま冷えて固まり溶岩ドームとなる場合があります。</p>	<p>二酸化珪素が少ない</p> <p>玄武岩質 安山岩質</p> <p>『黒っぽい島』</p> <p>二酸化珪素が少ない玄武岩質のマグマは噴出する時の温度が約1,100~1,200℃。粘り気が少ないため流れやすい溶岩流となります。</p>
<p>——— 海岸部の比較 ———</p>	
<p>新島・本村前浜海岸</p>	<p>八丈島・南原千畳敷</p>
<p>——— 山間部の比較 ———</p>	
<p>神津島・天上山裏砂漠</p>	<p>大島・裏砂漠</p>

新島の宮塚山を中心に、東西で大きく岩石の性質が異なります。



どうして島によって見た目が違うの？

噴火年代と溶岩の違いが、島々の個性を生み出しました。

伊豆諸島では、噴火した年代や火山活動で噴出された岩石の違いによって島のカタチや植生が大きく異なります。

それぞれの特徴について、図にしてご紹介します。

噴火年代が新しい



地形

大島は1986年、三宅島は2000年に、全島避難になるような噴火が起きています。こうした噴火年代が新しい島では、噴火によって流れ出した溶岩が海岸部まで達し、低い海岸線を形成しています。また、カルデラや火口などの噴火の痕跡が色濃く残っています。



植生

海岸から山頂まで標高差に富み、噴火の影響を受けて間もない場所、久しい場所の両方があることから、植生がない荒原から巨樹の森まで多様な植生が見られます。

大島

三宅島

噴火年代が古い



地形

利島や御蔵島は最後の噴火が有史以前と古いため、大地が長い年月をかけて波や雨の浸食を受け、山では谷が発達し、海岸部では海食崖と呼ばれる険しい崖が見られます。



植生

伊豆諸島における植生の移り変わりの最終段階であるスダジイ林に覆われ、特に山頂付近は霧が発生しやすくうっそうとした森になります。

八丈島

利島

御蔵島

玄武岩質・安山岩質



海岸部には海岸植生も



つるんとした地形の西山(八丈富士)



谷が発達した東山(三原山)



変化に富む地形



世界でも珍しい二重式カルデラ火山

(C) Makoto Harada

青ヶ島

八丈島は西山(八丈富士)と東山(三原山)で特徴が大きく異なります。

流紋岩質

流れにくい性質の流紋岩がドーム状に固まった溶岩ドームが複数形成され、変化に富む地形となっています。

新島

式根島

神津島



伊豆諸島の火山は何がすごいのか？

火山活動の歴史が、 今でも深く刻まれています。

日本には活火山が111存在していますが、そのうち12（無人島含む）が伊豆諸島にあります。これらの火山では火口やカルデラなどの様々な噴火の痕跡が見られることに加え、噴火年代が異なる島々を並べてみることで、長い火山島の歴史を感じることができます。

伊豆諸島では、火山島の一生を見ることができます。

最後に噴火したのが5,000～7,000年前と考えられている御蔵島や、1986年に噴火した伊豆大島など、様々な噴火年代の火山からなる伊豆諸島では、火山島がたどる一生を観察することができます。



三宅島

01

新しい火山では何度も噴火を繰り返し、溶岩が海に向かって流れ出ることによって大地を形成し、島が大きくなっていきます。



利島

02

噴火活動がおさまった島では、長い時間をかけて波によって浸食されて海岸を削られた、徐々に岩石が露出する「海食崖」と呼ばれる崖が形成されます。



鵜渡根島

03

さらに浸食作用が進むと次第に小さな島となっていく、やがては消滅してしまいます。

裸になった大地にも草木が芽吹き、やがては森になっていきます。

噴火によって草木が一本も生えずに、岩や土がむき出しになっている状態の土地を「裸地」といいます。ここから、時間の経過とともに、段階に応じた植物が入れ替わるように生育していきます。



三宅島のひょうたん山

01

噴火によって黒一色になった荒原に、「パイオニア植物」と呼ばれるイタドリなどが徐々に生育していきます。



伊豆大島の低木林

02

時間の経過とともに、荒原はススキなどによる草原となり、さらにはオオバヤジャブシなどの低木の植物が茂るようになります。



御蔵島の森

03

低木林はやがてオオシマザクラなどによる中高木林となり、最終的にはスダジイの生い茂る森へと成長していきます。

伊豆諸島にはどんな生きものがいるの？

火山と黒潮の影響を受けて 島ならではの生命が育まれました。

伊豆諸島は火山の噴火から生まれた島々であり、
本土とつながったことのない海洋島であると考えられています。

そのため、海を渡ることでできた限られた動植物により独自の生態系が
作られており、本土では見られないような種も生育・生息しています。

生息に適した環境により、鳥たちの楽園に！

鳥類相が豊かであり、希少種（絶滅危惧種や天然記念物）の繁殖地にもなっています。固有種や固有亜種も多く生息します。



アカコッコ
伊豆諸島とトカラ列島のみに
生息する日本固有の野鳥



イイジママシクイ
夏鳥として伊豆諸島や
トカラ列島へ飛来



タネコマドリ
コマドリの亜種で、
一年中見ることが出来る留鳥



カラスバト
「ウウー」という鳴き声が
特徴的な、日本最大のハト

伊豆諸島固有の珍しい昆虫も存在しています。



ミクラミヤマクワガタ
御蔵島と神津島のみに生息



ハチジョウノコギリクワガタ
八丈島のみに生息



とても小型で、飛ばずに
地面を歩いて移動
するのが特徴です。

島でよく見られる花たちをご紹介します。



オオシマザクラ
ソメイヨシノの交配
親でもある。
3～4月頃に開花。



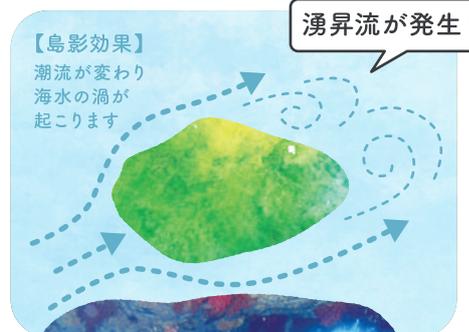
ガクアジサイ
花の形が特徴的な
アジサイ。
5～7月頃に開花。



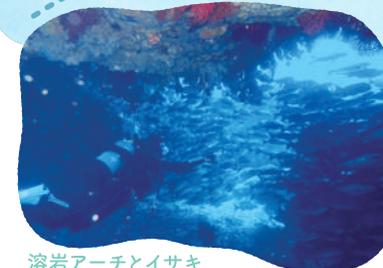
サクユリ
ヤマユリの変種で、
伊豆諸島のみに生育。
7～9月頃に開花。

島影効果と複雑な海底地形によって、海にも多様な生物が生息！

伊豆諸島の海は、暖かい黒潮の影響を大きく受けて
います。さらに、潮の流れを島が遮ることによって潮流
が変わる「島影効果」や火山活動による「複雑な海底
地形」が影響して海水の上昇流や渦が起り、海底の
栄養塩類が太陽の光が届くところまで押し上げられ
ます。すると、光合成を行う植物性プランクトン、さらに
動物性プランクトンが増加。それらをエサにするタカベ
やイサキ、ムロアジ、トビウオ、カツオなど多くの魚が
集まり、鯨類や海鳥類を含む多様な海洋生物が生息
する豊かな海が形成されています。



カンムリウミスズメ
希少な海鳥類の繁殖地にもなっています。



溶岩アーチとイサキ
溶岩でできた複雑な地形に魚の群れが集まってきます。



ザトウクジラ
冬に来遊し、陸上からもクジラが見られることが特徴です。
(写真：八丈町・東京海洋大学鯨類学研究室)



サンゴとウミガメ
沿岸ではサンゴも見られ、カラフルな
熱帯性の魚やウミガメ等もやってきます。

島ごとに生きものの特徴が違うって本当？



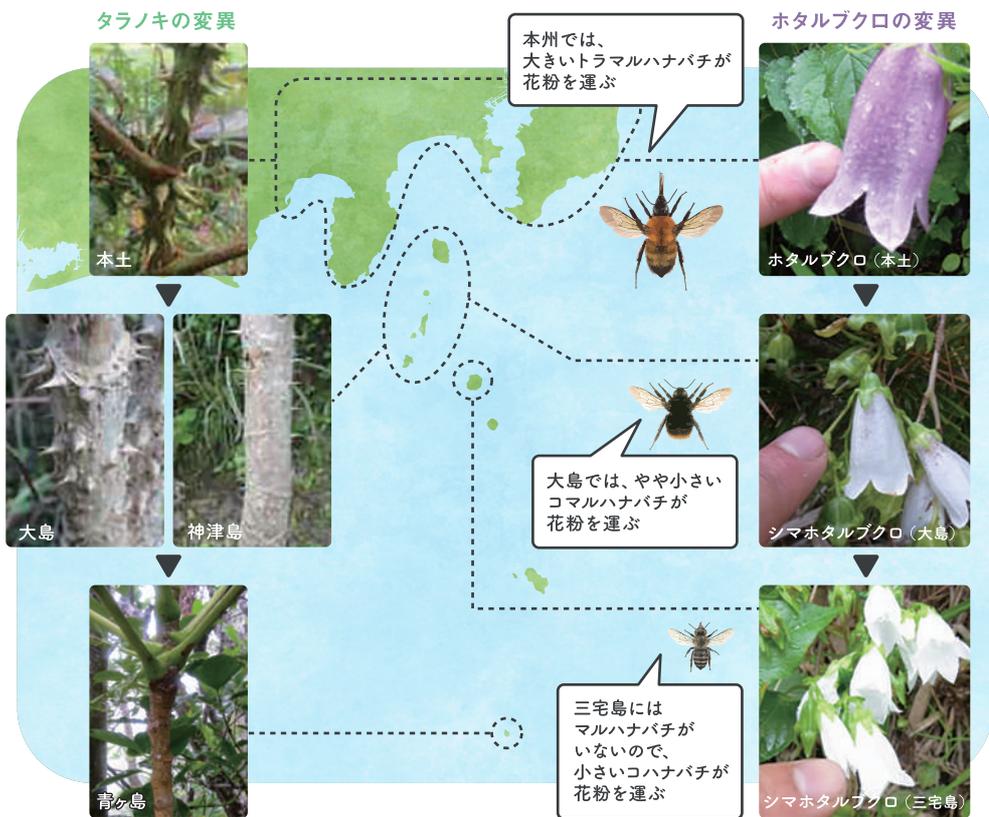
島から島へ、海を越えて、 独自の変異を遂げました。

伊豆諸島の生きものは、風によって、潮の流れによって、
また渡り鳥によって、本土から島へ、島から島へと渡り、
それぞれの島の環境に適応するように独自の変異を遂げています。



例えば、島によって花の大きさが異なるホタルブクロ。 さらに、タラノキも南へいくほどトゲが減っていきます。

伊豆諸島のホタルブクロ（シマホタルブクロ）は、受粉を助ける昆虫の大きさの違いによって花が小型化しています。また、伊豆諸島のタラノキ（シチウトタラノキ）は、草食動物が少ないことから、身を守るためのトゲが南の島にいくほど少なくなっています。



例えば、しっぽの色が変わるオカダトカゲ。

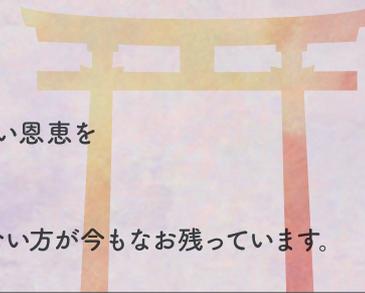
伊豆半島の一部と伊豆諸島にのみ生息するオカダトカゲの子どものしっぽの色は、シマヘビがいる島とない島で異なります。



伊豆諸島の人々は自然とどう関わってきたの？



火山島ならではの暮らしが
今も残っています。



自然の脅威と向き合いながら、そのかけがえのない恩恵を
大切にして生きる、島民たちの暮らし。

ここには火山が生んだ島ならではの自然との付き合い方が今もお残っています。

火山とともに生きてきた歴史に、特別な想いを抱いています。

噴火が起こる度に、島民はその脅威を乗り越えてきました。

一方で人々は火山を信仰の対象として崇め、恐れ敬いながら生活を営んできたそうです。例えば、大島では火山噴火の姿を「御神火様」と呼び、島の大地を形作ってきた火山活動に対して畏敬の念を抱いています。

また、青ヶ島では天明の大噴火(1785年)で生き残った島民200人あまりが約半世紀を経て島へ帰還した出来事を「還住」と呼び、その精神は今も大切に受け継がれています。



島民たちが愛する温泉は、火山の大きな恩恵です。



例えば、式根島。野趣あふれる式根島の温泉の歴史は古く、大正8年(1919年)に島を訪れた俳人の萩原井泉水は、「病む人、湯の沸く岩をじっと抱いて」そう紀行文に記しているように湯治にも利用されてきたそうです。

伊豆諸島には他にも多くの温泉があります。湯につかりながら波の音を聞いたり、夕日を眺めたり、星空を見上げるなど、火山の恵みである温泉は島民たちの暮らしの一部です。

草食動物が少ない島だからこそ育つ野草を、食卓へ。

伊豆諸島は、日本本土に比べて草食動物が少ないため、野草に毒や棘等が少なく、食べられる野草が多いのが特徴です。特に伊豆諸島全域に生育している「明日葉」は、島民たちにとっては野菜の代わりのような存在。その昔、穀物などが育ちにくい環境においても、ビタミン不足や栄養失調にならなかったのは、いたるところに自生する明日葉を日常的に食べていたからだと言われています。



貴重な水と塩を節約した食文化が息づいています。



若い火山島は雨水などが溜まりにくいいため、水が大変貴重です。また、江戸時代、伊豆諸島における幕府への年貢は塩でした。そこで、干し魚を作る際、貴重な水と塩を節約するために同じ塩水を何度も使い回しているうちに、いつのまにか塩水が発酵して誕生した「くさや」。海産物を長期保存できるこの「くさや」は、江戸の食通の間でも人気だったとか。さらに、くさや液に含まれる微生物や製法の違いによって、島ごとに香りや味わいが異なり、それぞれに特徴があります。

富士箱根伊豆国立公園の、
8つの島。それぞれの
「つなぐものがたり」を
ご紹介します。

伊豆諸島の島々には、それぞれに生い立ちがあり、

互いにつながりあいながらも、これまで独自の歴史を歩んできました。

地球の営みとともに育まれた自然や文化を知ること、

観光地としてだけではない島の愉しさに出逢えるかもしれません。

ここからは、各島の特徴と物語をご紹介します。



Miyakejima



Oshuma



Toshima



Kozushima



Niijima



Shikinejima



Mikunashima



Hachijyojima

海にも山にも、
東京とは思えない
驚きの景色が
広がっています。



国立公園の地種区分について

- 特別保護地区：特に優れた自然景観をもっており、最も厳格な保護規制が行われる地区
- 特別地域：風致を維持するため、第1種～第3種の3段階に分けて規制が行われる地区
- 海域公園地区：優れた海中・海上の景観を維持するための海の保護地区
- 普通地域：公園区域外との緩衝地域として、風景の保護を図る地区

大島

おおしま

Area / 90.76km²
Surrroundings / 52km
from Tokyo / 120km

凡例

- 国立公園区域
- 特別保護地区
- 特別地域
- 普通地域
- 国立公園区域外
- 車道 ——— 歩道

※特別保護地区内への
車両(自転車を含む)の
乗入れは禁止されています。



「大地の公園」として、島
全体が日本ジオパーク
にも認定されています。

Oshima

Point

雄大なカルデラと、 火山景観が美しい島

約1700年前、伊豆大島山頂で大規模な水蒸気爆発が起こり、山頂部が陥没。ここにカルデラができました。さらに、1777年からの大噴火でカルデラの中にできた新たな山が三原山です。大島の魅力は、噴火のたびに大きさや形を変えてきた「中央火口」をはじめとして、溶岩の粒や火山灰が広がる「裏砂漠」、約2万年分の噴火の歴史がつまった「地層大切断面」などの雄大な火山景観が見られるところです。



三原山中央火口

01 火山活動が生んだ独特の海の風景



トウシキ

王の浜の柱状節理

海まで流れ込んだ溶岩や海岸付近で起こる噴火によって海岸の地形も変化してきました。「波浮港」や「トウシキ」では、溶岩流やマグマが海水と接触することにより起こるマグマ水蒸気爆発の痕跡が見られます。海中でも「溶岩アーチ」や、溶岩が冷えたりマグマ全体が縮むときにできた割れ目である「柱状節理」などの溶岩景観が見られ、そこには多様な生きものが暮らしています。

02 時を超える植生遷移の体験



再生の一本道

噴火活動が活発な大島では、溶岩流の年代の違いや、風向きなどによる堆積物の厚さや火山ガスの影響度合いの違いによって、黒一色の大地から森になるまでの植生の移り変わり(遷移)が観察できます。特にカルデラ内の「再生の一本道」では、トレッキングコースを歩きながら数百年間の植生の遷移を体験することができます。

03 暮らしと四季折々の花々



ヤブツバキの防風林

大島では、希少なサクユリをはじめとして、オオシマザクラ、オオシマツツジ、ガクアジサイ、ヤブツバキなどの伊豆大島ならではの花々や、スカシユリやタイトゴメなどの島の強い風にも耐える海浜植物などを四季折々で楽しむことができます。中でもヤブツバキは、伝統的に精油や防風林などとしても活用されてきました。

利島

としま

Area / 4.12km²
 Surroundings / 8km
 from Tokyo / 147km

椿油の生産量は日本一！
 きれいに管理された椿林など、
 小さな島ならではの「自然と共生
 した暮らし」を感じてみましょう。



0 1km

凡例

Light Blue	国立公園区域
Red	特別保護地区
Green	特別地域
Yellow-Green	普通地域
Grey	国立公園区域外
Black line	車道
Dashed black line	歩道

Toshima



Point

段々畑のヤブツバキが 広がる、円錐形の島

火山活動が止まってから長年経過している利島は、海岸が浸食されて断崖となっているために円錐形の形をしているのが特徴。椿の植林が山の7合目あたりまで大部分に渡って広がっていて、段々畑状に管理されています。利島の椿産業は250年以上前から継続して行われてきました。先祖代々受け継がれてきた椿林が成す美しい景観は島の財産です。島の中央にある宮塚山から眺める海や集落の景観も魅力です。



椿の段々畑

01 昔ながらの自然とともに生きる暮らし



玉石の石垣



シデと水がめ

人口や観光客の数が他の島と比べて少ない利島では、自然とともに生きてきた昔ながらの島の生活が残されています。海岸から運び積み上げた玉石垣、サクユリの根を焼酎にするなどの食文化、「シデ」と呼ばれる笹の枝を使って水がめに雨水を貯める飲み水確保の知恵など、島ならではの自然の恵みを利用した生活を知ることができます。

02 椿畑で育つサクユリ



サクユリ

ヤブツバキの種子を椿油に利用している利島。椿畑では樹上で完熟し落下した種子を拾い集める手法をとっており、種子を見つけやすくするため下草刈りが丁寧に行われています。そうすることで林床が適切に管理され、希少なサクユリなどが多く育っています。人々の自然な営みが島の自然を豊かにしていることが特徴です。

03 宮塚山の森が育む生きもの



宮塚山の森

宮塚山の7合目からは、古来より「カミヤマ」として島民の信仰対象とされ、現在でもスダジヤやタブなどの自然林が残されています。山頂付近は霧がかかりやすいために雲霧林になり、シランやセッコクなどの着生植物が観察できます。また、オオミズナギドリの繁殖地にもなっており、森を歩くとあちこちに巣穴を見ることができます。

新島

に
い
じ
ま

Area / 23.64km²
Sunnoundings / 28km
from Tokyo / 163km



Niijima

Point

きらめきの白い砂と
青い海の対比が美しい島

新島は、風化した流紋岩質のマグマから誕生した白砂と青い海のコントラストが美しい島です。白砂をよく見るとガラス質の透明な砂が多く混ざっています。サンゴ礁に由来している沖縄などの白砂とは異なり、新島の白砂は流紋岩質の火山灰に由来しているためにガラス質の鉱物（石英）が含まれています。白く輝く砂は「世界一のきらめきの白い砂」と称され、羽伏浦海岸から島の南端まで続く広大な浜辺は、他の島にはない景観です。



羽伏浦海岸

01 浸食が続く巨大な絶壁「白ママ断崖」



白ママ断崖

島の南東部にある、高さ250mほどの白砂の壁が浸食されてできた「白ママ断崖」。背後にある向山が886年に噴火した際に流れた火砕流の層が露出したものであり、波や風雨による浸食で崩れてしまった砂は、羽伏浦海岸の砂浜の源となっています。

02 希少なコーガ石の産出



砂んごいの道(コーガ石の堀)

「コーガ石」とは、流紋岩の溶岩内部の水蒸気が急激に噴出したことで、孔が多く、水に浮くほど軽い貴重な石のこと。新島以外ではイタリアのリバリ島でしか採れない希少な石材であり細工しやすく耐火性にも優れ、建築物や石像、タイルなどに活用され、特に冬の強い季節風を受ける集落部ではコーガ石による風除けの堀が独特の町並みを形成しています。

03 コーガ石から生まれた新島ガラス



新島ガラス

「コーガ石」を粉砕すると窯業の原料「新島長石」になり、高熱を加えると含まれる鉄分が反応して渋いオリーブ色に変化します。そうして生まれた「新島ガラス」は、新島の特産品になっています。新島ガラスアートセンターでは、新島ガラスの制作体験も行うことができます。

式根島

しきねじま

Area / 3.88km²
 Surroundings / 12km
 from Tokyo / 171km



Shikinejima

Point

ゆったりと時が流れる、美しい海岸に囲まれた島

穏やかな入江に囲まれ、周囲12kmと小さな島である式根島。複雑に入り組んだ海岸とそこで生育するクロマツ林、海岸近くの奇岩や小島、白砂などが織りなす風光明媚な海岸景観が特徴であり、特に南東部の海岸部は「式根松島」とも呼ばれています。また、神引展望台からは美しい海岸に加えて伊豆諸島の島々も見渡すことができ、「新東京百景」にも選ばれています。



神引展望台からの眺め

01 潮の干満で湯加減が変わる海辺の温泉



地鉦温泉

足付温泉

海辺の温泉である地鉦温泉や足付温泉は、潮の満ち干きによって湯加減が変わります。島内の温泉の泉質は、ナトリウム塩化物強塩泉ですが、「地鉦温泉」は赤茶けた色で『内科の湯』と呼ばれるのに対し、「足付温泉」は無色透明で『外科の湯』と呼ばれています。また、御釜湾では海底から温泉が湧き出す貴重な現象が見られます。

02 湾状の美しく穏やかな海岸



泊海水浴場

式根島では海水浴場などで湾状の地形が見られますが、これは溶岩流が浅い海へ流入した結果、マグマ水蒸気爆発を起こした痕跡です。流紋岩質の火山灰由来の透明な砂を多く含む真っ白な砂浜も特徴です。海中にはタカバやキンギョハナダイ、アオウミガメなどの多様な生き物が生息しています。

03 天然のクロマツ林での森林浴



ハイキングコース

式根島はクロマツが多く、海岸部以外のスタジの森にもクロマツが混生し、特徴的な景観を作り出しています。島内に整備されたハイキングコースでは、天然のクロマツ林で森林浴を味わうことができます。

神津島

こうしじま

Area / 18.58km²
 Surroundings / 22km
 from Tokyo / 188km



Kozushima

Point

伝説と歴史が残る、 神々が集いし島

“神集島”が名前の由来とされている神津島では、伊豆諸島をつくらせた事代主命が各島の神々を集め、神津島で水の分配を行ったという「水配りの伝説」が残されています。その会議が行われた天上山の「不入ガ沢」は、今でも足を踏み入れてはいけぬ神聖な場所です。その他にも、龍神様が祀られる天上山不動池をはじめとして、島内では昔からの信仰と結びついた神聖な場所が多く見られます。



天上山不動池

01 山頂の多様な景色が美しい花の百名山「天上山」



新東京百景の眺め

山頂部に咲くオシマトツジ

838年の噴火でつくられたとされる天上山の山頂部では、流紋岩由来の広大な白い砂地をはじめとして、灌木林や池などの多様な景色を見ることができます。また、山頂部からの伊豆諸島の島々の眺望は素晴らしく『新東京百景』に選定されています。さらに、強風や雲霧などの影響によって標高572mながら高山植物や海岸植物を含む花畑のような景観が広がり、「花の百名山」にも選定されています。

02 透明度抜群の海



赤崎

透明度日本一に選ばれたこともある美しい海には多種の魚類が生息しており、テーブルサンゴやチョウチョウウオなどがみられる赤崎をはじめとしてダイビングスポットが多数あります。また、海上では無人島である祇苗島及び恩馳島で繁殖するカムリウミスズメなどの海鳥類も見ることができます。独特の模様が見られる流紋岩が立ち並ぶ海岸の景観も特徴的です。

03 海を渡った黒曜石



黒曜石の露頭

神津島では、流紋岩質のマグマが急激に冷やされたことで生じる黒曜石が産出されます。旧石器時代から本土で矢じりなどとして利用されてきた黒曜石。縄文時代には東日本一帯で利用されていたと言われ、神津島では活発な交易が行われていたことが分かっています。特に多幸湾の東に位置する砂糠崎では、黒曜石の露頭が帯状にはっきりと見られます。

三宅島

みやけじま

Area / 55.26km²
 Surroundings / 39km
 from Tokyo / 186km



Miyakejima

Point

繰り返す噴火、 その痕跡が残る島

玄武岩質の活火山・三宅島は、伊豆諸島の中で最も噴火記録の多い島。約2500年前の大規模な「八丁平噴火」でできた雄山山頂の八丁平カルデラや島の南部にある大路池をはじめ、噴火により一夜で形成されたスコリア丘であるひょうたん山や新鼻新山、1983年噴火の水蒸気爆発で一瞬のうちに干上がった新澤池跡など、多数の噴火の痕跡を見ることができます。さらに最近では、2000年(平成12年)噴火によって雄山山頂に新たなカルデラが誕生しました。



新鼻新山

01 植生の驚くべき生命力



迷子椎



大路池

三宅島も大島と同様、噴火後の裸地から照葉樹林が形成されるまでの植生の移り変わりを観察することができます。2000年(平成12年)の噴火で壊滅的被害を受けた推取神社のスダジイ林は、現在では驚くべきスピードで再生しています。また、繰り返す噴火の中でも御祭神社・満願寺ではスダジイの原生林、大路池の周辺にはスダジイやタブノキの原生林が残されており、「迷子椎」などの巨樹も多く見ることができます。

02 複雑な地形が織りなす豊かな海



富賀浜

噴火の影響は海中でも見ることができ、溶岩が作り出すアーチや切り立った壁などの複雑な地形が特徴です。また、サンゴの群集やクマノミなどの温帯・熱帯魚、カンパチなどの回遊魚の群れなど様々な生き物を観察することができます。伊豆諸島唯一の大規模なテーブルサンゴが発達した富賀浜や、溶岩に囲まれた自然のタイドプールである長太郎池などではダイビングやシュノーケリングが盛んです。

03 様々な野鳥を楽しめる野鳥の楽園



ウチヤマセンニュウ

三宅島はヘビや肉食は哺乳類など鳥類の天敵が少なかったことから野鳥の生息密度がとても高く、多くの野鳥が確認されています。中でもアカコッコやイジマムシクイなど希少な鳥も見ることができ、特に原生林が残る大路池周辺はバードウォッチングに最適です。また、伊豆岬はウチヤマセンニュウの、大野原島はカムリウミスズメの重要な繁殖地となっています。

国立公園の利用上のマナー

Manners

国立公園に指定されている伊豆諸島の自然は、未来へ引き継ぐべき島の「宝」です。多くの方に持続的に楽しく利用していただくために、自然を大切にすることを心がけ、ルールやマナーを守って利用してください。



ゴミを捨てないでください



歩行中禁煙



花や植物を採らないでください



キャンプやたき火は指定の場所で行いましょう



野生動物に餌を与えないでください



岩石を採らないでください



動物を獲らないでください



野生化する恐れのある動植物を持ち込まないでください

その他、公園内には独自のガイドラインが決められているところがあります。これらのガイドラインに留意し、ルールやマナーを守って楽しい公園利用を行ってください。

各島へのアクセス

Access

ゆっくりと船旅を楽しむなら「大型船」で、あっという間に移動するなら「高速船」で。爽快に空からの眺めを楽しむ「飛行機」や「ヘリコプター」もあります。

